

長岡市・中之島町・越路町・三島町・山古志村・小国町
合 併 協 定 調 印 式

会 議 録

長岡市・中之島町・越路町・三島町・山古志村・小国町
合併協定調印式

日時：平成16年9月9日（木）午前11時

場所：長岡市役所 大会議室

合併協定調印式次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ 長岡地域合併協議会会長
- 3 立会人紹介 新潟県知事、6市町村議会議長
- 4 合併協定書調印
- 5 あいさつ 長岡市長
- 6 立会人祝辞 新潟県知事
- 7 閉会

事務局（北谷）

本日は、お忙しい中、多数の皆様方のご臨席をいただきまして、まことにありがとうございます。
それでは、これより長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町合併協定調印式を行います。

私、長岡地域合併協議会事務局長の北谷でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、市町村長のごあいさつ、ご紹介を申し上げます。

まず、森長岡市長でございます。

樋山中之島町長でございます。

大野越路町長でございます。

遠藤三島町長でございます。

長島山古志村長でございます。

大橋小国町長でございます。

それでは、合併協定調印式の主催者を代表いたしまして、長岡地域合併協議会会長の森長岡市長が
あいさつを申し上げます。

会長（森 民夫）

このたび長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町の6市町村の合併協定調印式を開催
するに当たりまして、6市町村長を代表いたしまして、ごあいさつを申し上げます。

本日は、大変ご多忙の中、平山県知事からご臨席を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。私ども長

岡地域 6 市町村は、本年の 2 月に合併協議会を設置いたしまして、協議を重ねてまいりました。去る 8 月 31 日に第 9 回長岡市合併協議会におきまして、すべての協議項目の協議を終了いたしました。その後、新市建設計画につきまして新潟県ご当局と正式な協議を行ってまいりましたが、9 月 3 日付で県知事のご承認をいただきました。手続はすべて終了したわけでございます。私ども長岡地域の合併は、何と申しましても共存共栄を理念にしております。共存共栄の精神に基づきまして、それぞれの地域が特色を發揮しながらお互いに高め合い新しいまちづくりに取り組んでいくということが基本理念でございます。お忙しい中、本日時間を割いてこの合併調印式に参加いただきました合併協議会委員の皆さん、また長岡市議会を初めといたしまして、市町村の中で先頭に立って合併問題にかかわって下さいました中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町の各議会議員の皆さん、さらには新市建設計画の策定に携わっていただきました小委員会の皆様には改めて心から感謝を申し上げます。何と申しましても、これから新しいまちづくりに取り組んでいくわけでございます。

先ほど申し上げましたが、共存共栄の理念のもとに、新市の建設に取り組むことをお誓い申し上げまして、開会のごあいさつとさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

事務局（北谷）

ありがとうございました。

それでは、ここで立会人の皆様をご紹介申し上げます。

まず初めに、県議会が始まっている中、ご臨席賜りました新潟県知事の平山征夫様でございます。

続きまして、長岡市議会議長、小熊正志様でございます。

中之島町議会議長、五十嵐亮一様でございます。

越路町議会議長、石坂敏雄様でございます。

三島町議会議長、大桃健三様でございます。

山古志村議会議長、関正史様でございます。

小国町議会議長、樋口章一様でございます。

それでは、六つの市町村によります合併協定の調印へと進めてまいりたいと存じます。合併協定書には 6 市町村長が署名押印をいたします。また、立会人の皆様からは署名を行っていただきます。よろしくをお願いします。

< 調印 >

事務局（北谷）

本日ここに長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町の合併協定が結ばれました。

それでは、6 市町村長からただいま調印を行った協定書のご披露をお願いいたします。恐縮でございますが、お立ちいただいご披露お願いいたします。

< 協定書披露 >

< 拍手 >

事務局（北谷）

ありがとうございました。ご着席お願いいたします。

それでは、続きまして主催者であります6市町村を代表しまして、森長岡市長より御礼のごあいさつを申し上げます。

長岡市長（森 民夫）

ただいま6市町村長の署名と色鮮やかな捺印がされております調印書を今改めて拝見いたしまして、感慨無量の思いでございます。振り返ってみますと、平成13年の12月に市町村だけで合併研究会始めまして、その後平成15年に任意の合併協議会、本年2月の法律に基づく合併協議会と三つの段階を経てまいりましたが、この間ご承知のように見附市と栃尾市の離脱を初めといたしまして、さまざまなことがございました。山もあれば川もあるというのが合併の道のりだったと思うんですが、その都度私が今思いを強くしておりますものは、そうした危機的な状況を迎えるたびに、結局物を言ったのはコミュニケーションだったと思います。いろんな問題が起きるたびに、この6人の市町村長、また各議会の皆様が真剣に議論をして、その山を乗り越えてきたということだと思えます。その結果として、私どものこの合併におきましては、長岡方式の地域自治というものが確立をされました。これは、もちろん合併は地方分権をより強固なものにするためには、財政力あるいは組織力、あるいは市民力といったものが結集した足腰の強い基礎的な自治体をつくるのが目的ではございますけれども、その一方で各地域の伝統あるいは文化、あるいは特色ある政策というものが失われるようであれば、これはやはりいい合併とは言えないのではないか、そういう中で6市町村が真剣に議論をする中で一つの結論が出たものが地域自治ということだったと思えます。

今後は、この調印の後に、また各議会の議決をいただき、さらには新潟県ご当局への申請ということになるわけでございます。手続はまだ多々ありますけれども、いずれにしても来年4月に新しい市が発足した段階で、直ちに問題になりますのは共存共栄の精神を生かした新しいまちづくりを、本当に合併をしてよかったと我々の子供や孫が思えるような、新しい都市づくりを進めることだと思っております。私ども今日の合併調印式を迎えまして、その決意を新たにしたいわけでございます。

本日お集まりの皆様方には、引き続きましてさまざまな面でご支援、ご協力をいただかなければならないわけでございますが、皆様方の温かいご支援、ご協力を心からお願いを申し上げまして、御礼の言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。

事務局（北谷）

続きまして、本日お忙しい中、6市町村の調印式に立会人としてご臨席いただきました新潟県知事、平山征夫様よりご祝辞をちょうだいしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

知事（平山）

本日、ここに長岡地域で六つの市町村が合併の調印にその日を迎えることができました。今長岡市長さんからお話しありましたように、当初八つの市町村で合併の協議を始めたわけですが、結果的には二

つの市が抜けてしまいましたけれども、六つの市町村でこうして合併に至りました。決して八つの市町村で合併の協議してきたことが今後無駄になることもないだろうと、私はある種のまだ期待も残しておきたいと思いますけれども、当面この六つの市町村が新しい新長岡市として発足に向かって大きな一歩を踏み出したことを心からお祝い申し上げたいと思います。そして、今お話しのように大変平たんな道では必ずしもなかったんですけれども、ここに至りましたその間の市町村長さん始め議会議長さん、議会の議員の皆さん、そして市民の皆さん、住民の皆さん、関係者の皆さんの大変なご努力があったと思います。そのことに深く敬意を表したいと思います。また、今後の廃置分合から始まります合併に向けての手續がスムーズにいけますように、県としてもさらなるご支援申し上げたいというふうに思います。

この調印式のゴールの直前に、この地域は7.13水害ということで大変な被害をこうむりました。ご苦労が多かったわけでありまして。また、私といたしましては、途中でやや茶々を入れたような感じなんです。山古志さんの「古志」というのは新潟県にとって「古志」というゆかりのある地名だから、古志郡長岡市になったらどうかと言ったんですけれども、それはある意味でいくとそれぞれの伝統を今お話しのように守りながら新しい市になってもらいたい、そんな思いで、単に大きくなるだけじゃなくて新しい地域社会をどうやってつくっていくか、特に自立した分権型の時代の中で、地域が自立するためお互いの文化を尊重しながら、地域の特性を生かしながら、23万数千人という県内第2の都市になるわけです。そしてまた、この地域は信濃川がはぐくんだ古くからの特徴のある、そしてまた豪雪地帯、雪国文化がはぐくまれた土地であります。そして、その中から幾多の人材を世に輩出してきた土地でもあります。新しい21世紀、新長岡市がそうした伝統をさらに地域合併の中で広げながら新しい地域文化、そして伝統文化を守る生き方をこの信濃川の流れるがとうとうと歴史を刻み、変わらぬように新しい流れが、水がしかしながら毎日変わっているという思いを持っていただければ一番いい合併になるかなと思います。合併は手段であります。目的ではないわけです。私は10月の24日で知事を退任いたします。その前に、こうして立ち会うことができましたことを心から喜びたいと思います。

妙な話ですけども、県の財政悪化の中で、何とかヒントになるようなものはないかなと幾つかの本とか雑誌とか読んでいたんですけれども、知事をやめる数カ月前になって、自分が行政という立場に携わって最も尊敬すべき、模範とすべき人物に出会うというのも皮肉な話なんですけれども、二、三カ月前に読んだ本の中に早川八郎左衛門という人の話が載っておりました。上杉鷹山とか松平定信とか有名な人はいますけれども、早川八郎左衛門というのはそれほど有名な人物ではありませんし、江戸時代においてそれほど地位の高いものではありません。一地方の代官であったわけでありまして、地方役人として転々と転勤をしていった人物でありますけれども、この人の銅像が各地何カ所も建っています。それぞれの赴任した地域において人々から尊敬され、敬われ、その死を悼んで死後銅像が建っております。特に岡山県に赴任したときに、赴任直後に川のところにこもがかぶったものがたくさんある。何だろうとはぐってみたら、間引きされて死体となっている赤ちゃんでありました。直ちに間引き禁止令を出します。しかし、農民からは貧しくて食えないのに間引きを禁止されても困るという反論がありました。

しかし、生まれてきた命を自ら断つということは、人間がしてはならないことだ。食べれるように何とか自分が頑張るから、みんなもついてきてくれと、そして始めたのが水を守る、水をコントロールするための山に木を植える仕事、そして田んぼを広げ、食物を育て、そしてまた天候によって不安定になる農業収入をカバーするために、地域の特産物をつくっていくという地道な作業を一步一步重ねていったわけであります。そして、この早川八郎左衛門が転勤になるといううわさが流れた途端に、江戸時代において死罪も覚悟しなけりゃいけない江戸表への転勤をさせないでくれという直訴、嘆願を村人たちが行ったわけであります。しかしながら、翌年早川八郎左衛門は転勤となりました。岡山の地から関東の地へ転勤になった、その早川八郎左衛門を村人たちは3里の道を名残惜しんでついていったそうです。もうここで別れようと、何度言っても村人は離れなかったそうであります。そして、その地で亡くなった奥さんの墓の隣に今早川八郎左衛門の銅像が建っているわけであります。身分が高い人ではなかったかもしれませんが、本当に人々からこれだけ慕われた地方役人がいたのかと思うと、私どもも地方行政の原点というのは何なんだろうかと、改めて考えさせられる次第であります。

財政悪化で歳出を切るだけで本当にいいのかどうか、切り方にもかなり愛情を持った気持ちでやるのか、人々に対する思いをどこまで持つのか、そしてまた新しい合併した市が本当に人々にとって合併してよかったと言われる地方自立の時代の行政をしくということは、やはりこうした精神がベースにあることが大事なんだろうな、そんな思いであります。

本当に今日のこの調印を機に、新潟県内の中心の地形、そして大河信濃川のほとりの美しい自然を抱えた地域であります。豊かな信濃川の流れと同じように、豊かな人々の生活がさらに営まれますように心から祈念して、合併の目的が果たされることを一緒に祈念したいと思います。私も遠くからか、近くからかわかりませんが、合併後一県民あるいは一住民として見届けさせていただければと思いますし、今日ここにご列席の皆さん、今後ともこの合併の成功に向けてお力添えいただきますようお願いして、ごあいさつとさせていただきますと思います。本当におめでとうございます。

事務局（北谷）

ありがとうございました。

それでは、写真撮影に移らせていただきます。

お手数ですが、平山知事、6市町村長、ステージの中央まで移動をお願いいたします。

知事を囲んでいただきまして、固めの握手をお願いいたします。

<握手>

事務局（北谷）

報道陣の方、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

本日は、お忙しい中、県知事を初め多くの皆様からご臨席いただきまして、まことにありがとうございました。

以上をもちまして、長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町合併協定調印式を終了いたします。

なお、この後引き続き、この会場におきまして6市町村の首長と議長の記者会見を行います。準備でき次第よろしくお願いたします。

本日はこれで終了いたします。ありがとうございました。

(散会 午前11時37分)